

大阪府大阪市

アクセスPCカレッジ

～出会えた皆様に、CAD技術を通して常に就業の機会を提供したい～

建築CAD検定試験において、長きに渡り素晴らしい実績を残されている当校。過去にも「優秀団体賞」や「個人賞」の受賞者を何名も輩出するなど、質の高い教育を行っている。今回は、その取り組み方について、事務局長の渡瀬氏や建築CAD科の先生方にお会いし、お話を伺いましたのでご紹介いたします。



写真左から 渡瀬事務局長、吉岡先生、大浦先生、田村先生

貴校のご紹介をお願いします。

当校は、今から約12年前に派遣スタッフのスキルアップ講座を実施するために設立されました。使用する「AutoCAD」は、高価なソフトであったため、個人での習得やスキルアップが困難であり、当時の派遣スタッフにも非常に好評でした。

ところが、リーマンショックを境に建築業界の景況感も大きく右肩下がりになりました。しかし、そういった景況感はいつまでも続くということはありません。そこで、未経験の方や建築業界経験者でもCAD技術を習得することで再び活躍頂ける方など、幅広い方々にCADを習得していただきたいという思いから、4年前に職業訓練の学校として新たにスタートを切りました。

授業の特徴などあれば教えてください。

職業訓練の学校ということで、高校や大学などと異なり幅広い年齢層の方が集まります。受講生の最年少は19歳・最年長は73歳の方に受講いただいたことでもあります。年齢層が幅広いということは、当然、技術を習得するスピードなどにも違いがでてきます。さらに、職業訓練は3ヶ月という短期間で集中的にCADを習得してもらう必要があるため、いかにわかり易く多くの方に理解してもらうにはどうするかが求められます。

そこで、当校では「模型作製」→「手書図面」→「CAD図面」を学習の一連の流れとして考え、すべて同じ題材を使用して学習し、未経験の方でも図面を視覚的に捉えやすいように工夫しています。これにより、短期間の訓練ながらも、幅広い年齢層の方やコンピュータの得手・不得手に係わらず技術の習得に大きな効果を得ています。



屋根と1階・2階の取り外しが可能な住宅模型。住宅の平面図を理解するために効果的。

ご指導の際のご苦労はありますか？

苦労ではありませんが、受講生の皆さんの意識がとても高く、ただ合格するだけではなく「完璧な図面を描きたい」、あるいは「満点を試験で取りたい」という要望が多い点に、講師陣もすぐ身の引き締まる思いで指導しています。

授業での質問も、試験問題に表現方法が具体的に指示されていない部分についてなどは「この描き方は減点されないか？」、「この描き方の方が評価が高いか？」、「イメージ点で評価を得るには？」など、その真

■未経験の方でも建築図面を理解しやすくするため
「模型作製」⇒「手書図面」⇒「CAD図面」を同じ題材を使用して学んでいる。



この方法であれば習得するスピードが速く、3ヶ月間という短期間でも建築図面の読解や建築に関する基礎知識を身につけた上、建築CAD検定3級にチャレンジできる。



【設置コース】
建築CAD科(JW_CAD)(3ヶ月)
建築CAD科(AutoCAD)(3ヶ月)
インテリアコーディネーター(3ヶ月)

剣に取り組む姿勢には、私どもも感心し、大変嬉しく思います。

建築CAD検定の受験のきっかけは？

当校は、職業訓練の学校ですので目的は受講生の方々に就職していただくことです。就職支援やキャリアコンサルティングを通じて就職に対する目標を設定したり、訓練の達成目標を設定して1日でも早く就職していただくようにバックアップするのですが、訓練の達成目標が不明瞭になってしまったり、就職活動において職業訓練で習得したCAD技術のレベルが、企業様に伝わりにくい等の問題がありました。

そこで、その指標となる資格として建築CAD検定を導入しました。当然、資格はCADの技術能力を実社会に証明できるという役割を果たしますが、資格の側面はそれだけではなく、有能な人材確保を目指す企業は人間性にも目を向けます。資格を目標に取り組んだ方への評価は高く、就職という意味でも大きな変化を生むきっかけになりました。

受講生の反応はどうか？

まず、訓練の目標が明確になりました。当校ではCADの職業訓練として「建築CAD科(AutoCAD)」と「建築CAD科(JW_CAD)」の2コースがあります。AutoCADでは3級を

合格目標とし、JW_CADでは2級を合格目標とすることで、受講生が入校と同時に明確な目標を持てるようになりました。

また、就職の際に、履歴書の資格欄に「建築CAD検定〇級」と記載できることは、受講生の就職率アップにも繋がっています。具体的には、以前に63歳の方が受験されたことがありました。その方は、定年まで勤められていた企業より「建築CAD検定3級に合格したら再雇用してもいい」という話をいただいていたそうです。結果、みごとに(ギリギリ)合格され、合格証を持ってその企業に行き、見事に再雇用された事もございました。

これも、モチベーションアップに繋がった例のひとつだと思います。



授業風景(「CAD演習」(AutoCAD))

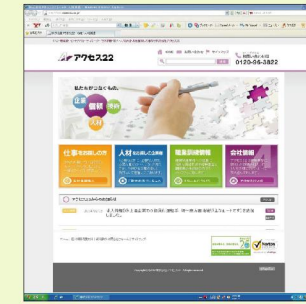
合格率がとても高いですが、ご指導の際のコツ、あるいは心掛けていることは？

もちろん最大の理由は講師の先生方の熱心な指導があつての結果だと思っております。講師の先生方には、休みの日もCAD連盟主催の説明会(指導者講習会)に参加していただき、説明会での重要なポイントをまとめオリジナルのマニュアルを作成してもらったり、カリキュラムの中でもどのように検定問題に取り組むかなど、常に受講生のことを考え取り組んでいただいています。

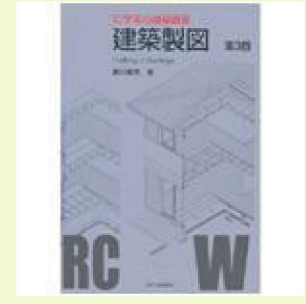
それ以外にも、職業訓練のカリキュラムは3ヶ月で約300時間となっておりますが、その中で建築CAD検定の過去問題もたっぷりと取り入れ、60時間以上を費やしています。また、コースは3ヶ月と短かく卒業後に受験される受講生も多くいますので、試験前には教室開放の実施や、無料で対策講座を開催してきたことが、合格率の高い要因ではと思います。

ご指導されていて良かったと思う時は？

やはり、受講生の皆さんが、「全員合格」すること。これにつきますね。とにかく皆さんが本当に真剣で、先にも述べました様に試験の直前には無料開放された教室で一生懸命練習に取り組んでいます。そういう頑張ってきた姿をずっと見てきていますから、合格したときの思いはやはり格別です。



アクセスPCカレッジのホームページ
(http://www.access22.co.jp/)



当校で使用するテキスト。建築CADではCAD操作ができるだけでは不十分であり、図面の読解や建築に関する基礎知識がしっかりと学べます。

あともうひとつ。「資格を目標に取り組み、それが就職に役に立った」という卒業した受講生からの連絡や感謝のことば。これも大変嬉しいものです。就職試験で「資格を持っているから君はCADが出来るそうだね」との期待のことばをかけられ採用をいただいたという報告をもらったときなども、やっけて良かったと思った瞬間です。私たち講師が行っていることは、受講生の方々の人生の転機に大きく寄与できるという仕事であることを強く感じ誇りに思います。

これからも多くの方々の就業に向けたお手伝いができることが楽しみです。



授業風景(「建築設備の基礎知識」)

就職状況や貴校の人材派遣会社について教えてください。

当校では、建築CAD科2コースとインテリアコーディネーター科の合計3コースを運営しています。その3コースを受講いただいた方は、この1年間、90%以上の方が就職されております。

また、建築CAD科においては就職率100%のクラスが、同じくこの1年間で8クラス中5クラスございました。これは、当校の人材派遣会社との連携も大きな役割を果たしている結果だと思います。人材派遣会社(株式会社アクセス22)は、建築CADオペレーターを中心に人材派遣をさせていただいていますが、おかげさまで各企業様にも大変ご満足いただいております。

職業訓練の学校を運営して4年が過ぎましたが、当社の派遣スタッフの約1割がアクセスPCカレッジの卒業生の方々です。技術の習得度合が明確であることはもちろん、3ヶ月の受講期間中に、その人物像

も把握していますので、ミスマッチが少なく企業様から高い評価をいただくスタッフが非常に多いのが特徴です。

多くの卒業生が活躍することで、当校の教育への評価も高まり、その結果、またさらに多くの受講生を社会に送り出す。

こういった仕組みが徐々に確立してきていることを感じ、これから益々期待しています。

今後の目標について。

アクセスPCカレッジは職業訓練校ですので、目標は受講いただいた方全員の就職が決定することです。また、株式会社アクセス22として考えたときは、CAD未経験の方々に、職業訓練としてCAD技術を習得していただき、その方々に派遣スタッフとして就業していただきたいと考えています。

そして就業先で実務経験を積み、正社員として新しいステップを踏み出されるなども期待しています。また、結婚・出産等で就業継続が困難になった方には、当社の在宅ワーカーとして図面請負業務に従事していただきたいと考えています。

また、できるならば結婚や出産で退職された方々が、就業からブランクができ、職場復帰するにはCAD技術に不安がある時等は、職業訓練校でその技術を再習得いただきたいとも考えています。

このように何らかのご縁で私共のもとにお越しいただいた方々に、CAD技術を通じて常に就業の機会を提供できる、そんな私たちがでありたい、そう心から願っております。

あとがき

渡瀬事務局長をはじめ、建築CAD科の先生方にお会いし一番強く感じたことはその「熱意」でした。就業という目標に向かう訓練生の強い思いをしっかりと受け止め、一緒になって目標に取り組む、そんな思いが先生方のことばや表情から伝わってきました。

これからも多くの有能なCAD技術者を送りだし、社会から必要とされる教育機関であり続けていただきたい、そう感じた今回の訪問でした。
2014.2.6